

## IV 市民意識調査に基づく「指標の現状（値）」

---

---

---



# 1 指標の現状(値)

## 第1節 連携型地域社会の形成

### 第1項 市民と行政の協働を推進します

めざしたい将来像:

「市民の自立」「市民や事業者などと行政の対等な関係」をめざす協働のまちづくりを推進し、安全・安心な豊かで、活力のある郷土愛に満ち、市民みんなが誇りに思える”ふるさとまつど”を実現します。そのため、支所など地域拠点の機能を高め、市民同士、市民と行政、行政組織同士などの連携を進めます。また、地域活動(町会・自治会活動、地区社会福祉協議会の活動)、NPO活動、ボランティア活動のそれぞれの活性化を図ります。

指標

市民活動(地域活動、NPO活動、ボランティア活動など)に参加している人の割合

#### (1)指標の説明

市民が、企業、NPO法人、ボランティア団体、町会、自治会などの一員として社会に貢献するという意志をもち、積極的に地域活動に参加している状況を把握するため、市民活動に参加している人の割合を指標とします。

#### (2)設問

この指標は、次の設問により地域を限定すると共に、積極性を加味し、直接的に聞いています。「社会・行動」

Q6 あなたは、市内で地域に貢献する活動を行っている団体、組織やグループの活動に、日頃積極的に参加していますか。次の中で、参加しているものをお答え下さい。(あてはまるもの全てに○)

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 1 町会・自治会           | 6 企業による奉仕活動       |
| 2 ボランティア団体         | 7 有志・仲間との奉仕活動     |
| 3 PTA              | 8 その他( )          |
| 4 NPO法人(特定非営利活動法人) | 9 積極的に参加しているものはない |
| 5 子ども会育成会          |                   |

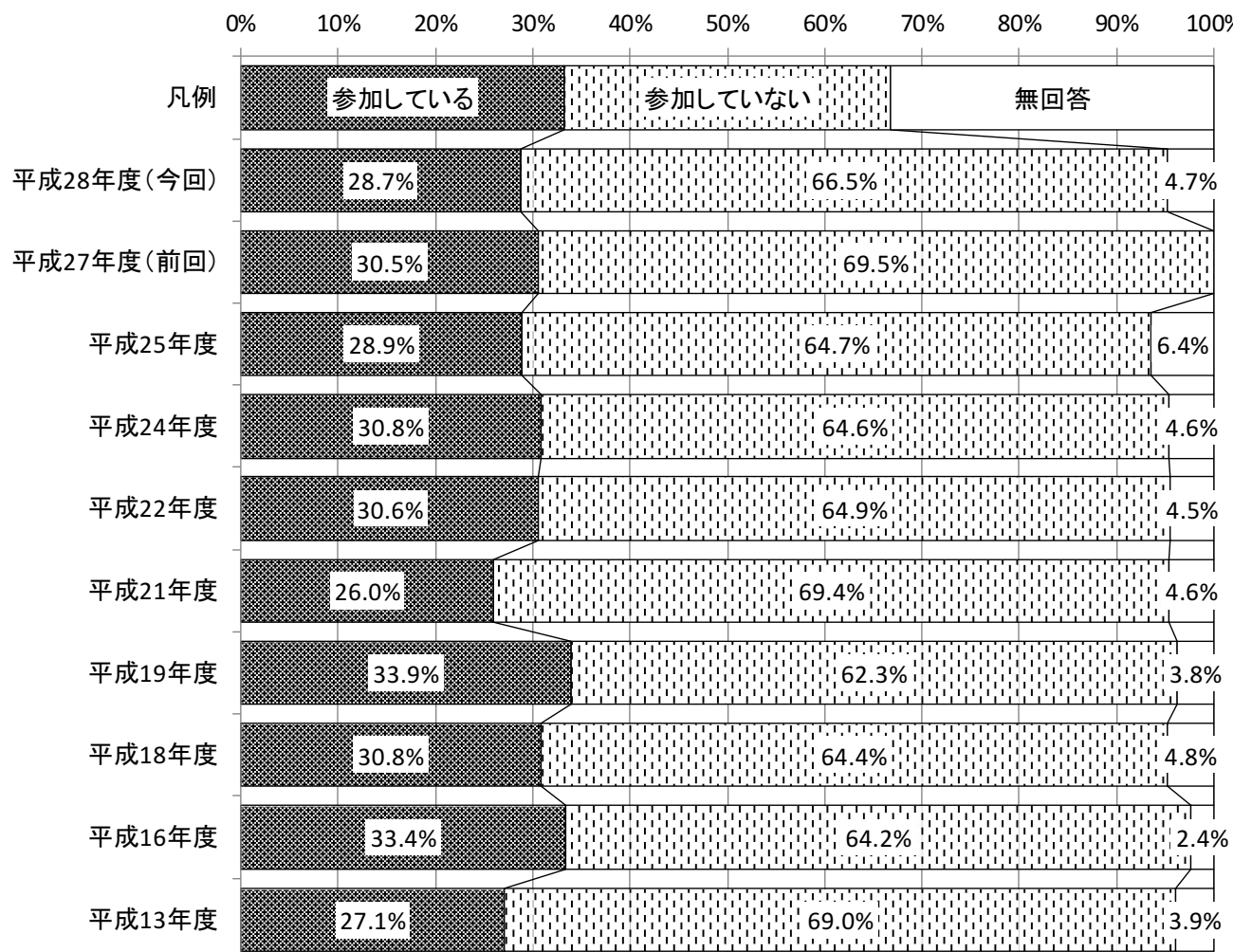
#### (3)指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度
参加している	27.1%	33.4%	30.8%	33.9%	26.0%	30.6%	30.8%	28.9%	30.5%	28.7%

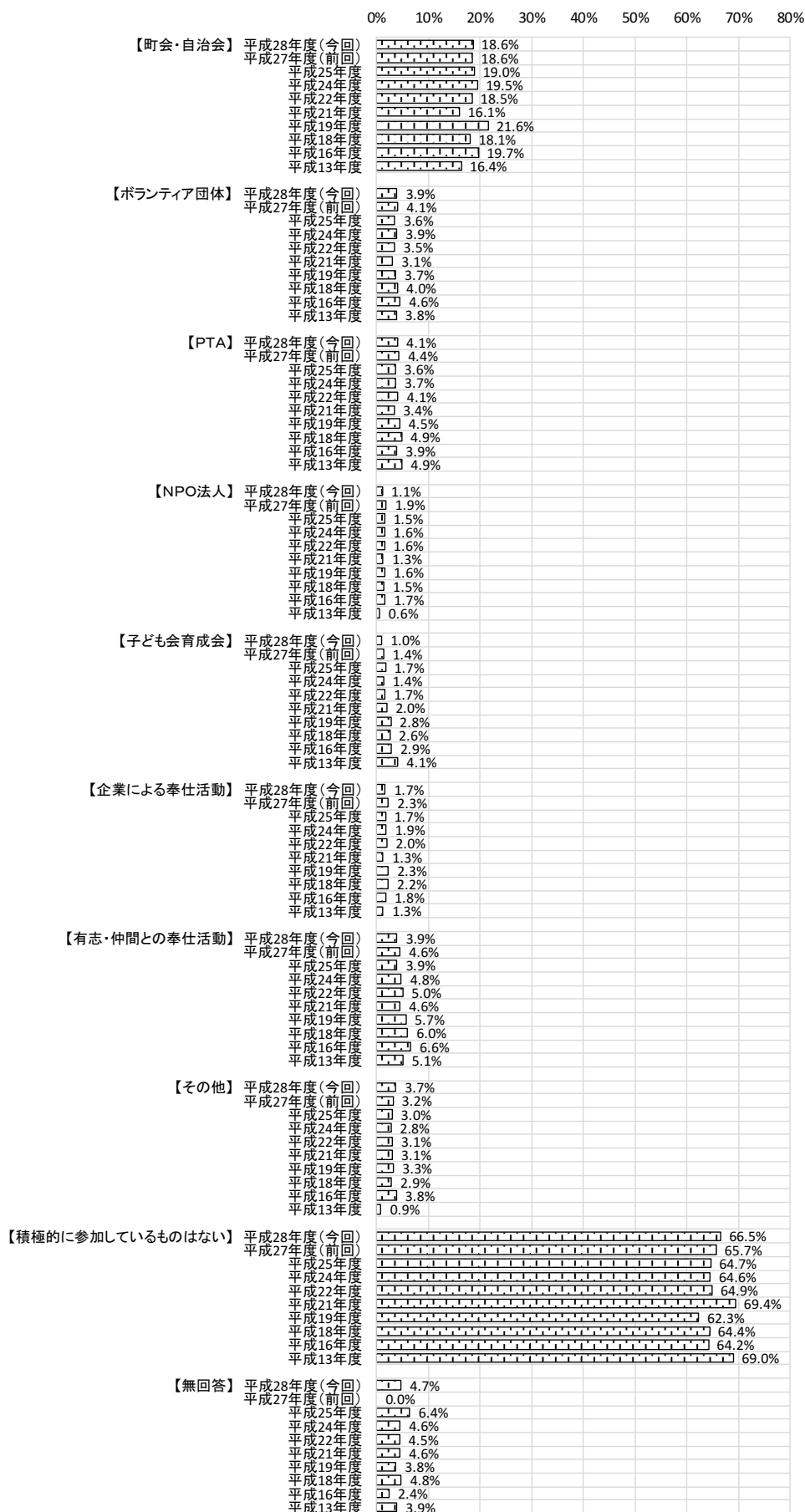
#### (4) 指標の分析

☆地域活動への参加者はわずかに増加していますが、3分の2は「参加していない」としています。

市内で地域に貢献する活動を行っている団体、組織やグループの活動に、日頃積極的に“参加している”という回答は28.7%と前回調査を、やや下回る結果となっています。全体では“参加していない”(66.5%)という回答が6割以上を占め、参加経験者を大きく上回っています。

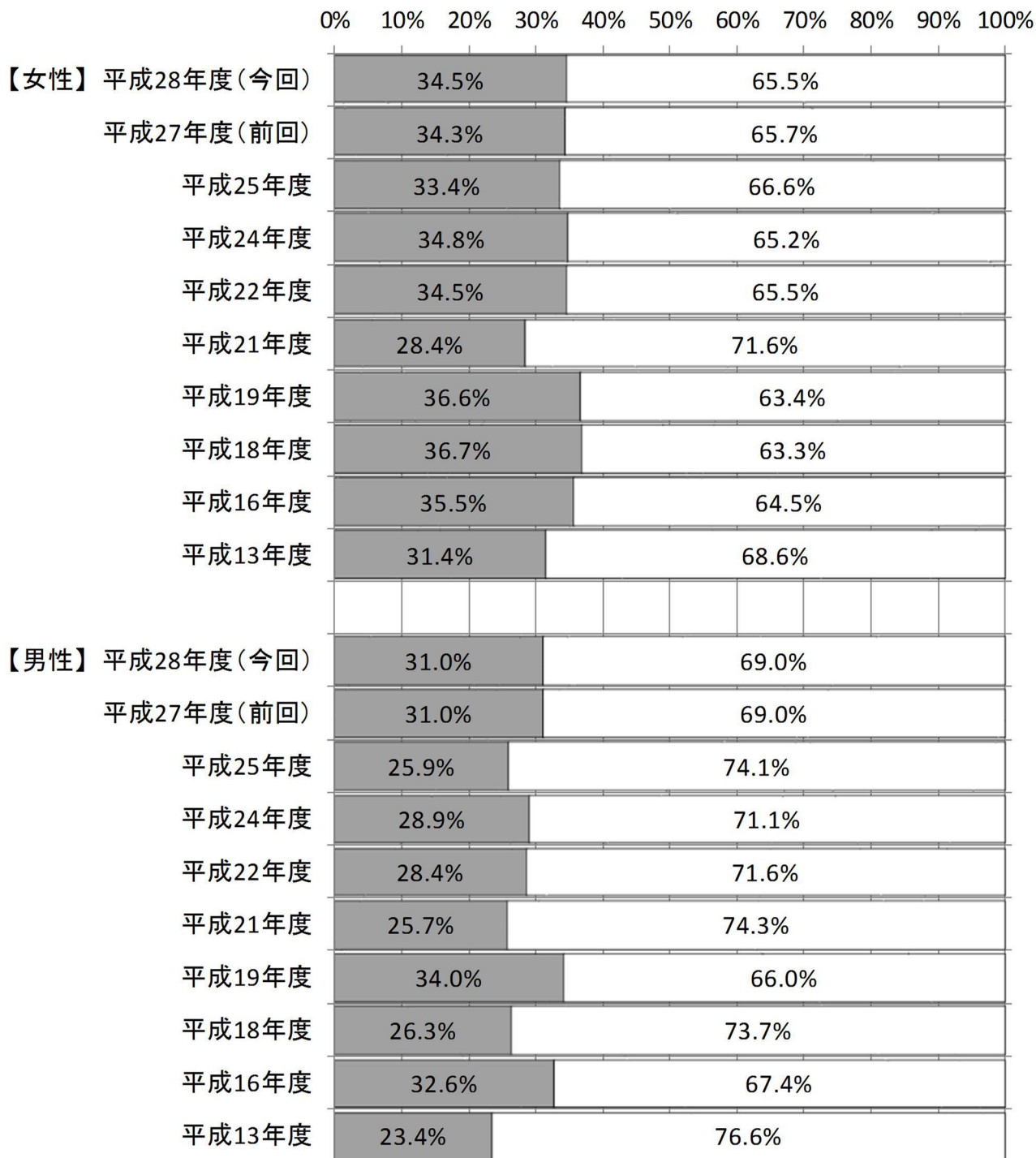


参加している活動としては、“町会・自治会”が前回と同様に 18.6%となっています。前回調査と比べると、各項目とも、やや減少しています。



性別で見ると、“女性”の方が参加している割合が高くなっています。男女とも前回調査と、ほぼ同じ水準となっています。

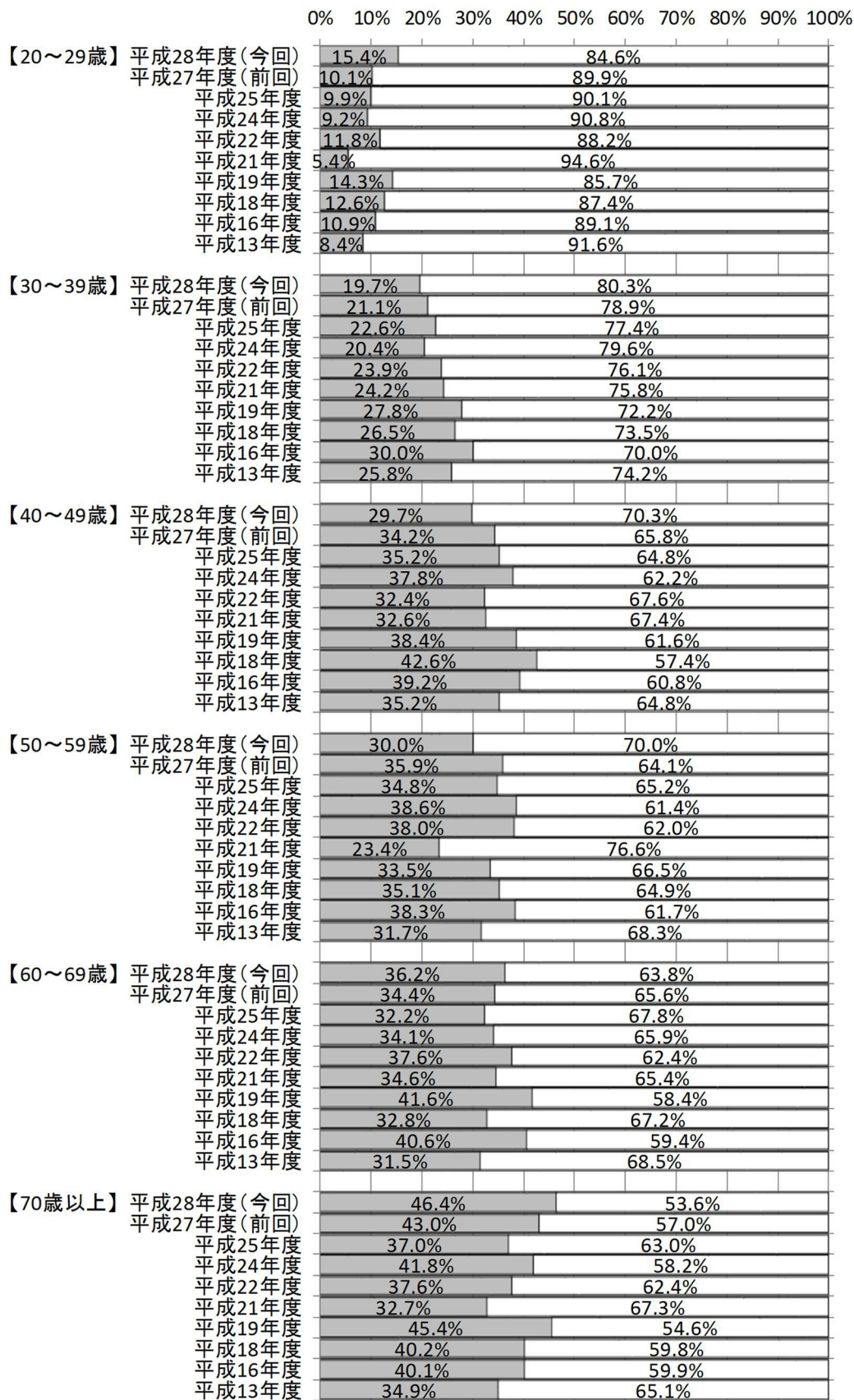
【地域活動×性別】



■ “地域活動に参加している”の比率 □ “積極的に参加しているものはない”の比率

年齢別で見ると、“30～39歳”、“40～49歳”、“50～59歳”を除く各年代で、参加している割合が前回調査に比べて増加しています。

【地域活動×年齢】

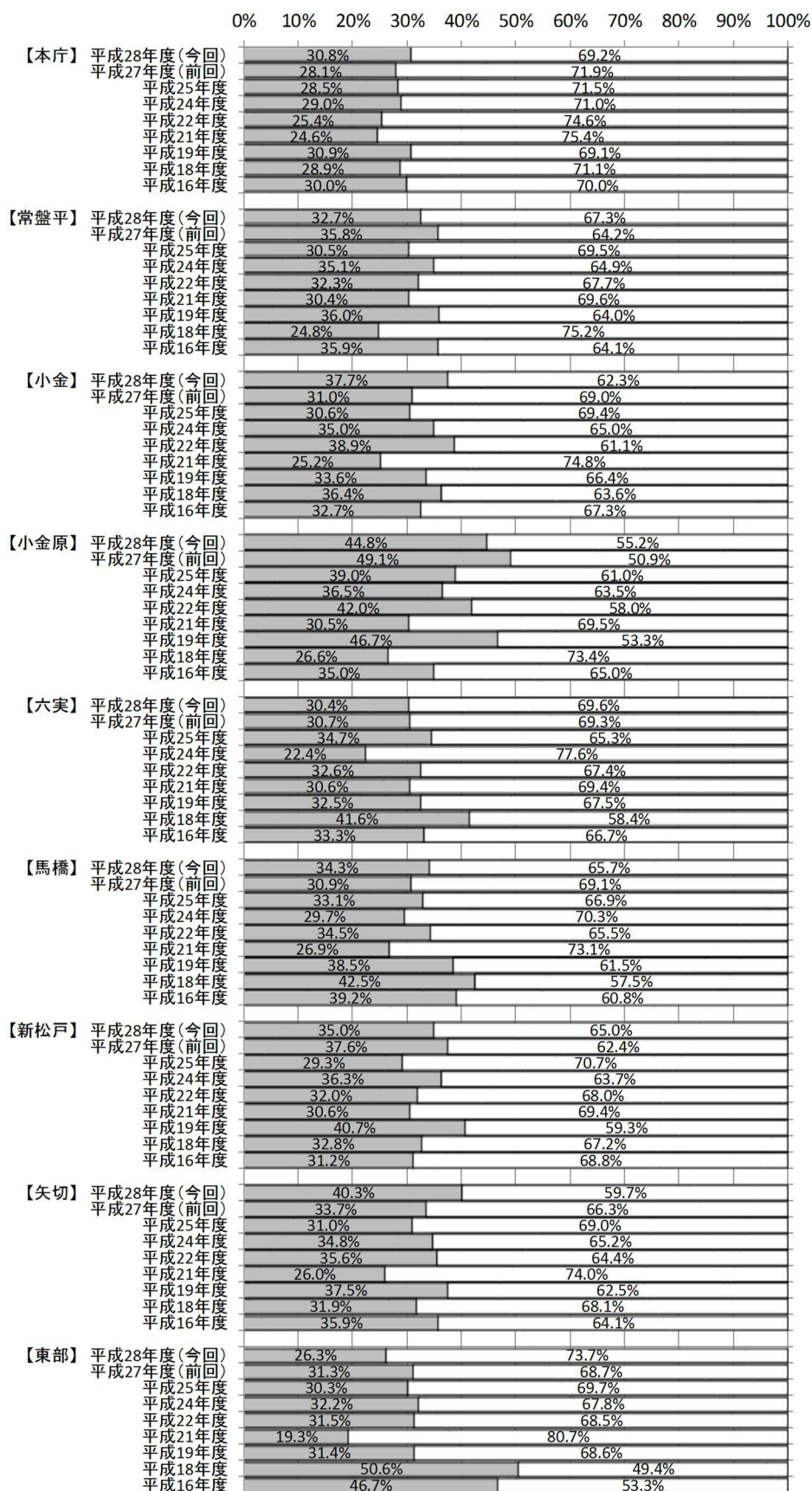


■ “地域活動に参加している”の比率 □ “積極的に参加しているものはない”の比率



地区別で見ると、全ての地区で地域活動に参加している割合は概ね3割前後となっています。最も多いのは、“小金原”の44.8%であり、次いで、“矢切”の40.3%となっています。

【地域活動×地区】

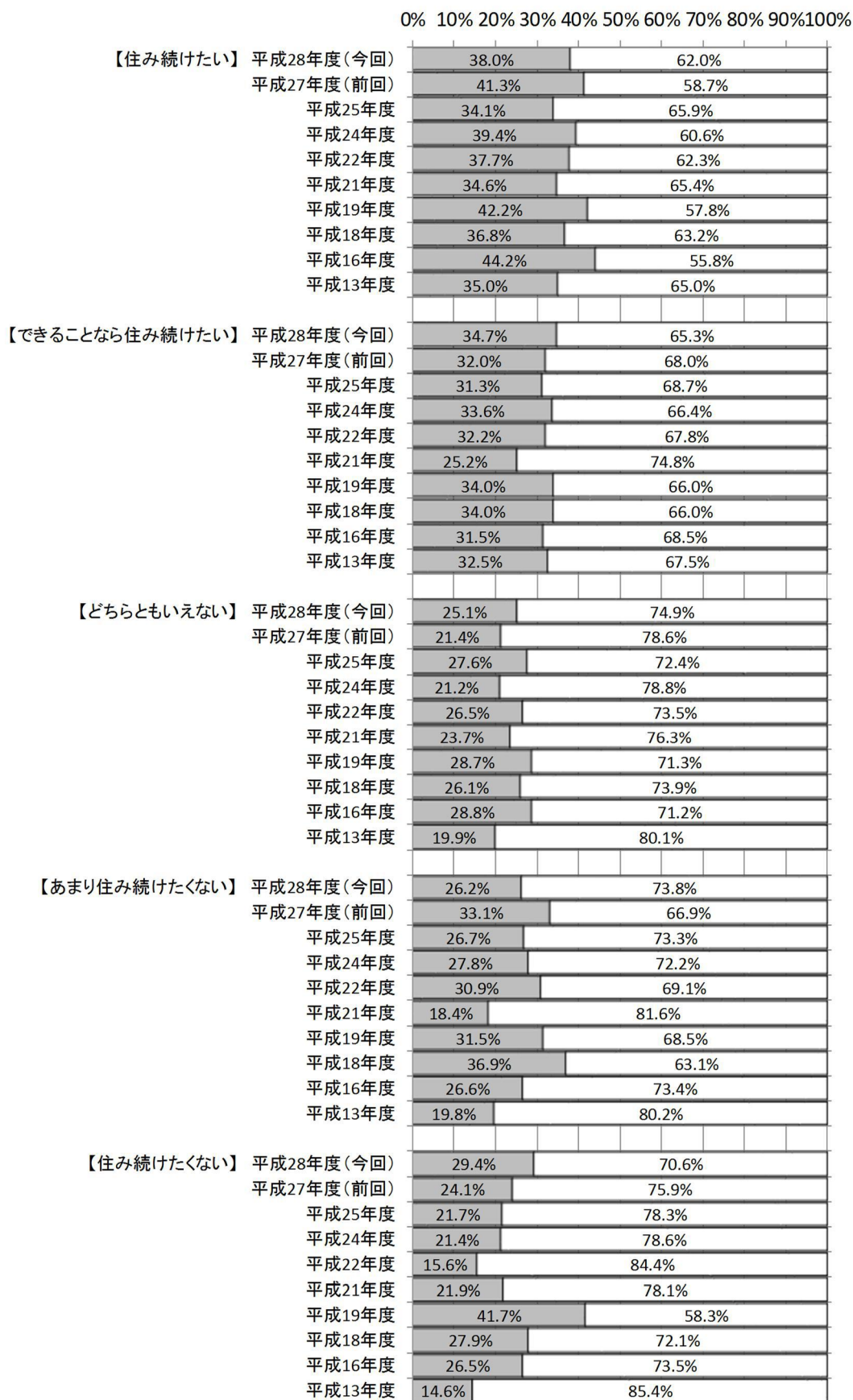


■ “地域活動に参加している”の比率 □ “積極的に参加しているものはない”の比率



定住意向との関係においても、地域活動に参加している割合は、“住み続けたい”・“できることなら住み続けたい”と回答している人の方が、“住み続けたくない”・“あまり住み続けたくない”と回答している人よりも高くなっています。

【地域活動×定住意向】



■ “地域活動に参加している”の比率 □ “積極的に参加しているものはない”の比率



# 第1節 連携型地域社会の形成

## 第2項 一人ひとりの人権が尊重される地域社会をつくります

めざしたい将来像:

松戸に住む全ての人々が互いに認め合い、多様な形でかかわりあえる「平等で人間性豊かな地域社会」を、自分たちで創り上げることをめざします。そのために、学習・交流など、様々な活動を心掛けます。

指標

身の回りで人権が守られていると思っている人の割合

### (1) 指標の説明

差別や偏見などに代表される人権問題は、問題を他人ごととして捉えられがちな傾向や、被害にあった方々が声を出しにくい環境などから、その実態を正確なデータとして捉えることは難しい状況にあります。このことから、身の回りで人権が守られていると思っている人の割合を指標とします。

### (2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「社会・態度(認知)」

Q1 あなたの身の回りでは人権が守られていると思いますか。次の中で、人権が守られていないと日頃感じることをお答え下さい。(あてはまるもの全てに○)

- |            |              |             |
|------------|--------------|-------------|
| 1 女性の人権問題  | 4 障害者の人権問題   | 7 患者の人権問題   |
| 2 子どもの人権問題 | 5 同和問題       | 8 その他( )    |
| 3 高齢者の人権問題 | 6 外国籍市民の人権問題 | 9 人権問題は特にない |

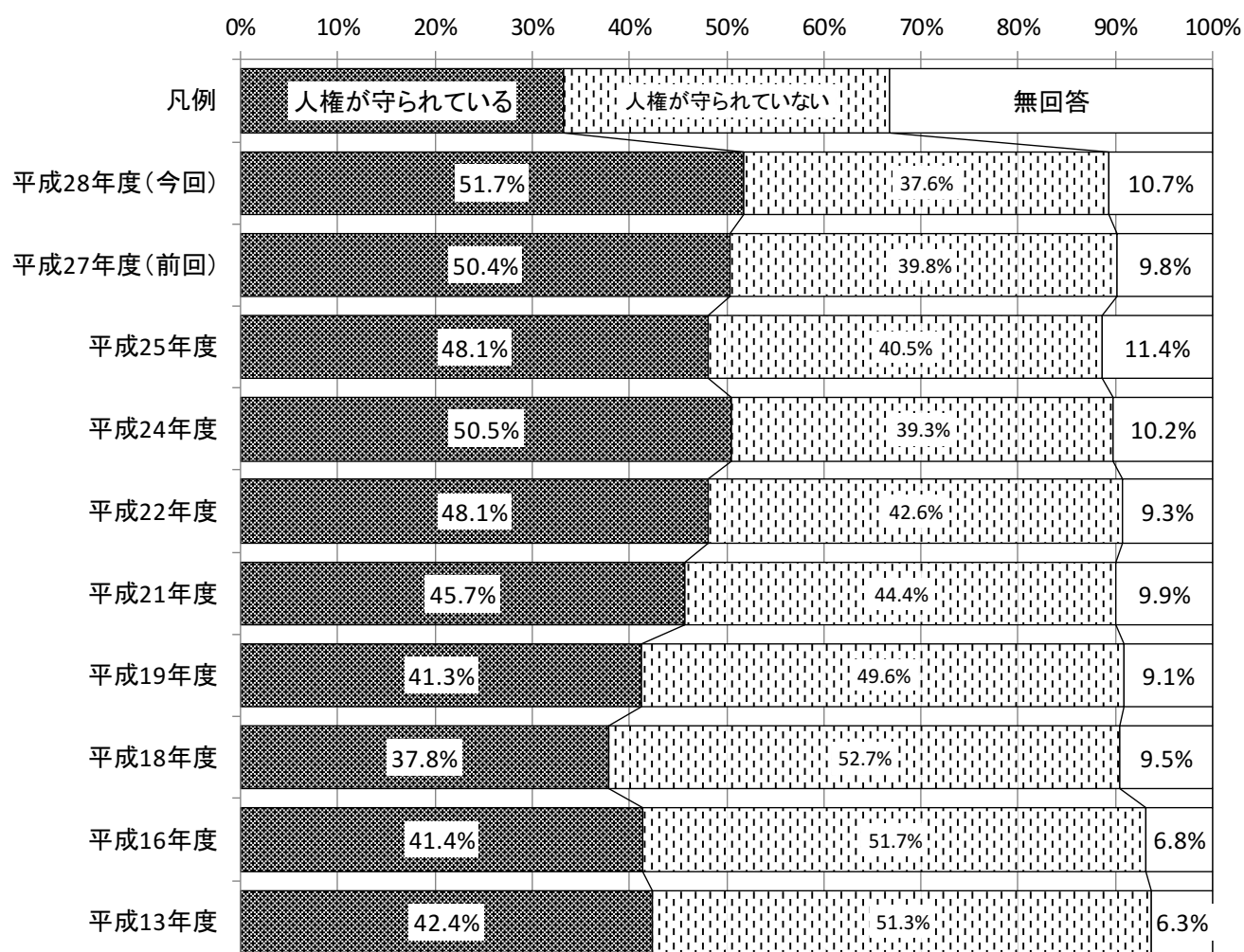
### (3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度
人権問題は特にない	42.4%	41.4%	37.8%	41.3%	45.7%	48.1%	50.5%	48.1%	50.4%	51.7%

#### (4) 指標の分析

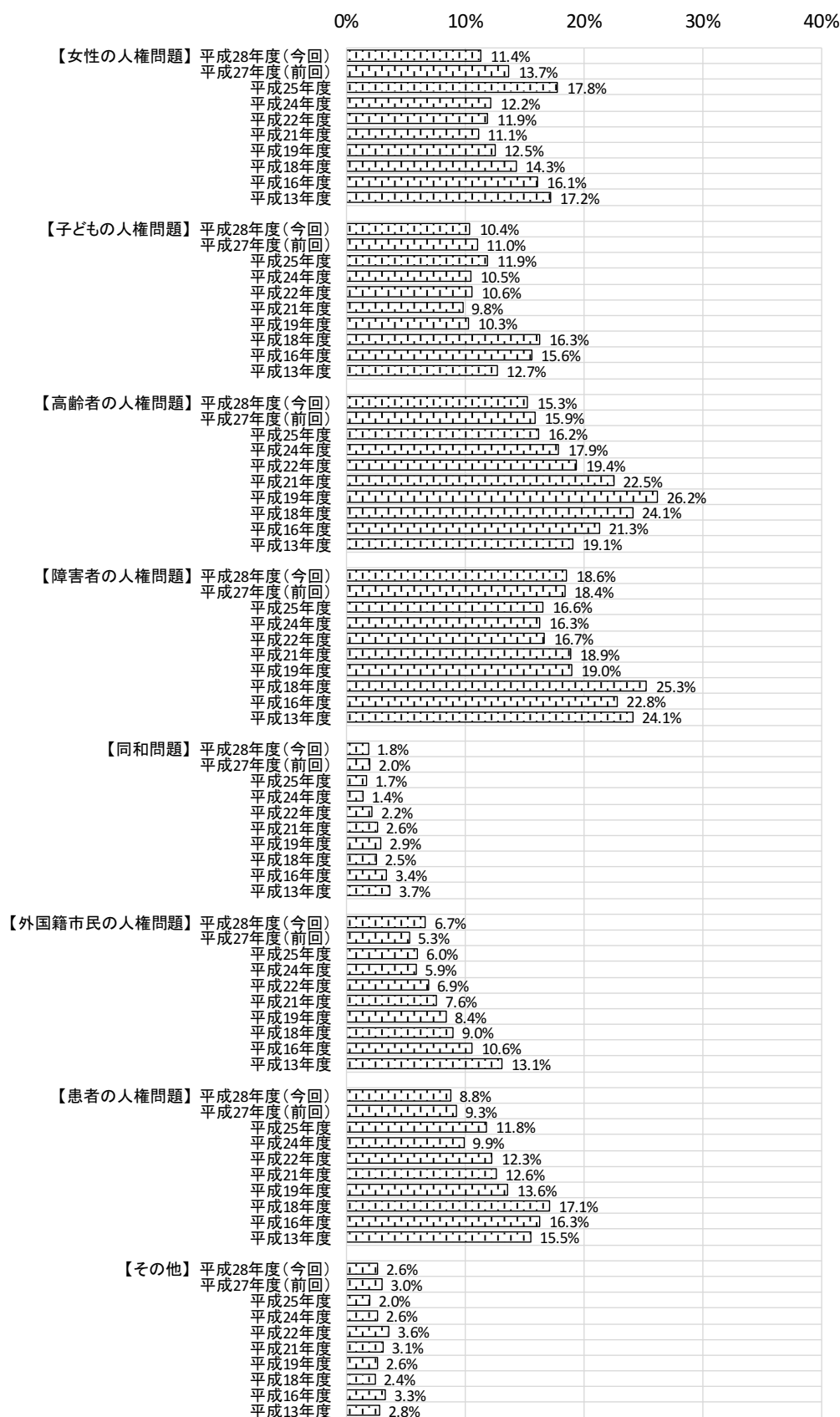
☆約半数は人権が守られていると評価しており、増加傾向にあります。

“人権が守られている”との回答は、平成18年以降高まっています。今回の調査でも51.7%と前回調査(50.4%)より1.3ポイント増加しています。



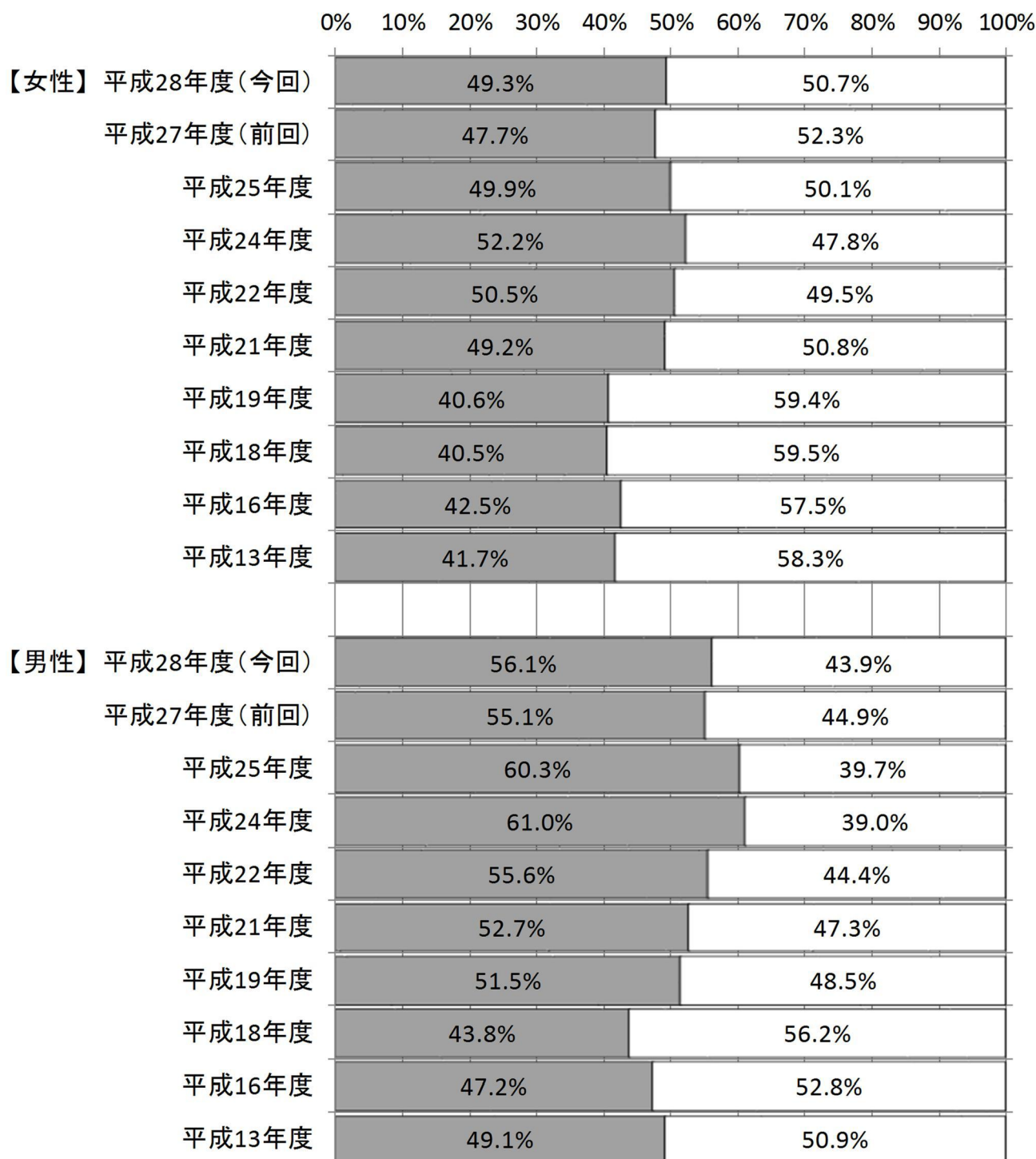
人権が日頃守られていないと感じることとしては、“障害者の人権問題”(18.6%)と“高齢者の人権問題”(15.3%)への回答が多くなっています。

“女性の人権問題”への関心度は11.4%であり、前回調査に比べて2.3ポイント下がっています。“同和問題”、“患者の人権問題”は低下傾向にあります。



性別で見ると、“人権が守られている”との意識は、前回調査と同様に“男性”が高く、5割を超えています。“女性”も前回調査より、1.6ポイント高く、49.3%となっています。

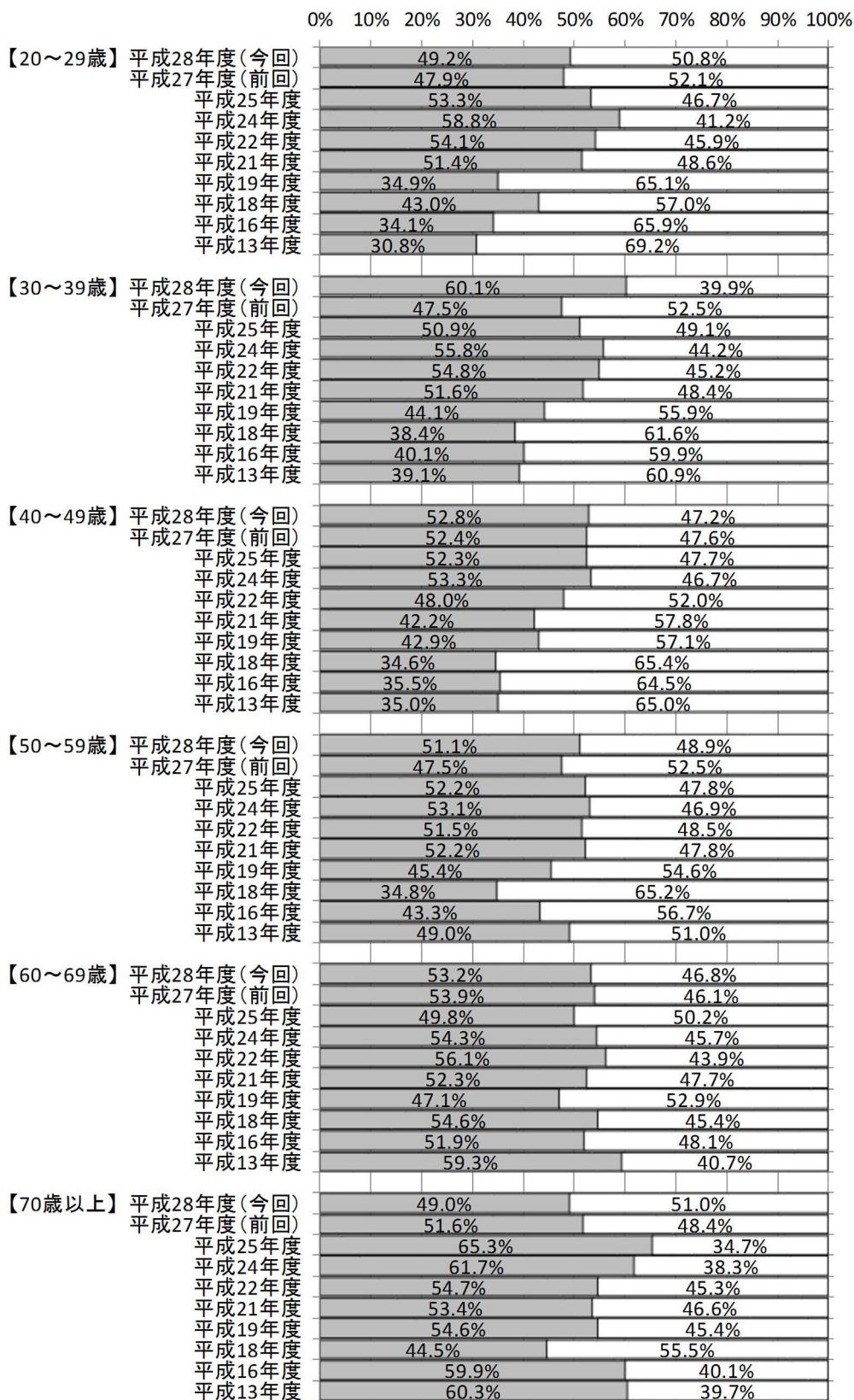
【人権問題×性別】



■ “人権が守られている”の比率    □ “人権が守られていない”の比率

年齢別でみると、“人権が守られている”との意識では、“30～39 歳”が最も多く 60.1%となっています。“50～59 歳”も 51.1%であり、前回調査より 3.6 ポイント増加しています。一方、“70 歳以上”は前回調査より 2.6 ポイント低下して 49.0%となっています。

【人権問題×年齢】



■ “人権が守られている”の比率    □ “人権が守られていない”の比率





# 第1節 連携型地域社会の形成

## 第3項 男女共同参画の地域社会をつくります

めざしたい将来像:

男女がお互いに相手の人権を大切に思い、ともに責任を分かち合い、個性や能力をフルに発揮できるまちをめざします。それは、男女が対等なパートナーとして、いろいろな分野に参画できるまちです。

指標

固定的性別役割分担を支持しない人の割合

### (1) 指標の説明

固定的な男女の役割意識が払拭されていくことで、家庭環境、社会環境が改善され、性別に係わらず役割が今以上に選択できるようになると考えられます。そこで、固定的性別役割分担を支持しない人の割合を指標とします。

### (2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・態度(認知)」

Q2 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考え方に同感するほうですか、それとも同感しないほうですか。(1つに○)

- |             |           |
|-------------|-----------|
| 1 同感するほう    | 3 同感しないほう |
| 2 どちらともいえない | 4 わからない   |

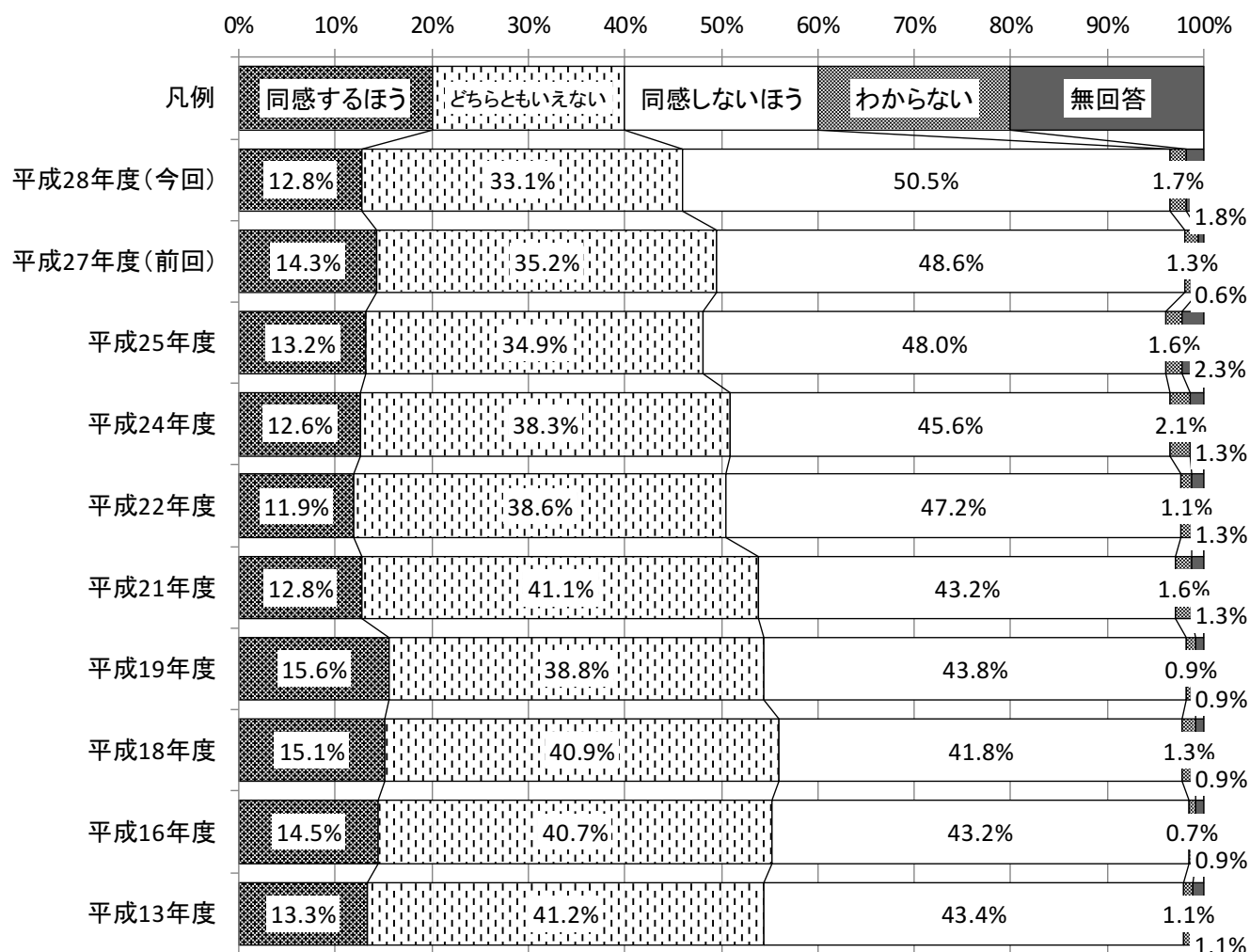
### (3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度
同感しないほう	43.4%	43.2%	41.8%	43.8%	43.2%	47.2%	45.6%	48.0%	48.6%	50.5%

#### (4) 指標の分析

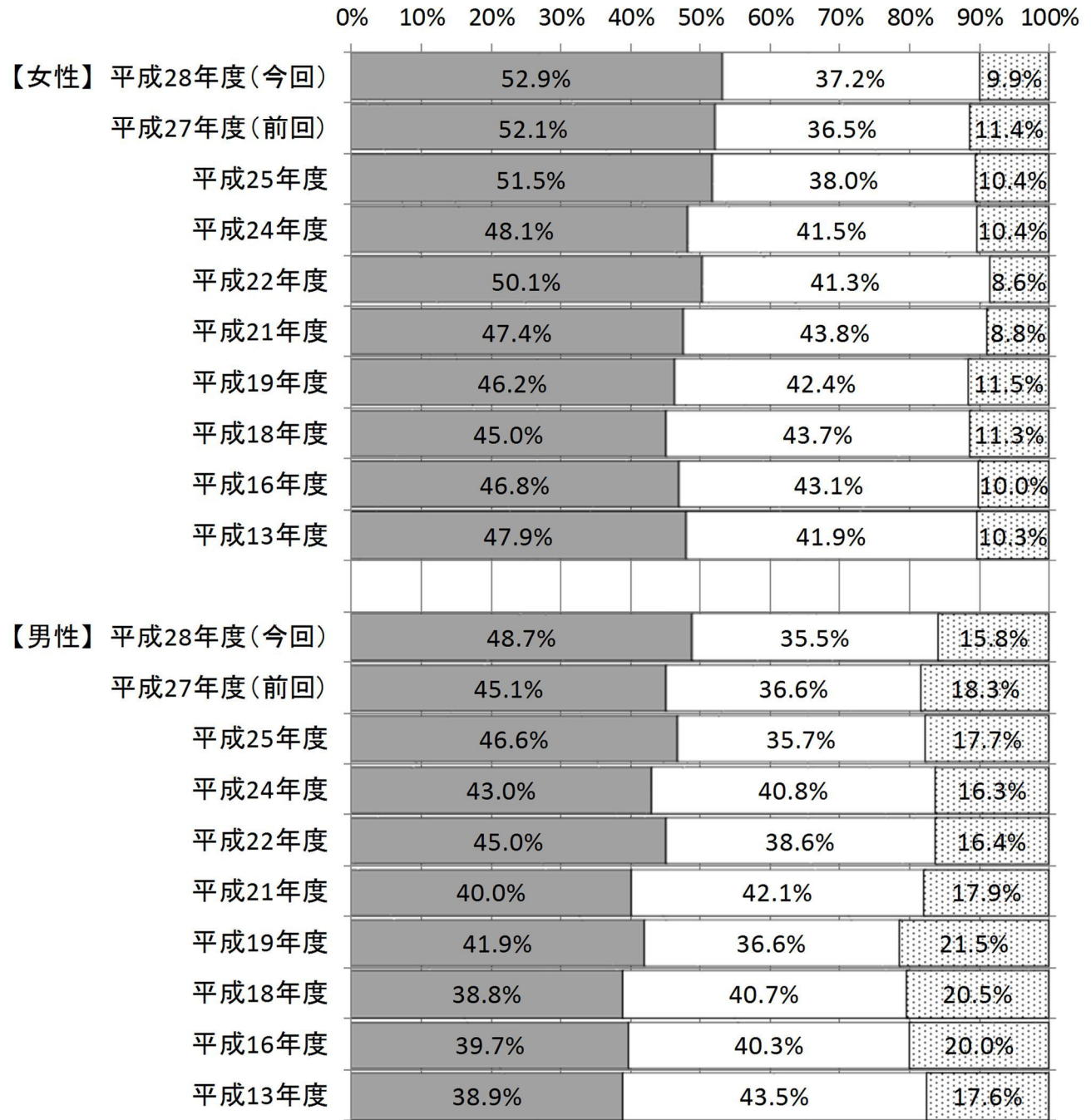
☆性別による役割固定を支持しない人は増加しています。

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「同感しないほう」という回答は、今回の調査では前回の48.6%から50.5%へと1.9ポイント増加しています。



性別で見ると、前回調査と同様に男女とも“同感しないほう”の割合が高く、また、“男性”(48.7%)より“女性”(52.9%)の方の割合が高くなっています。

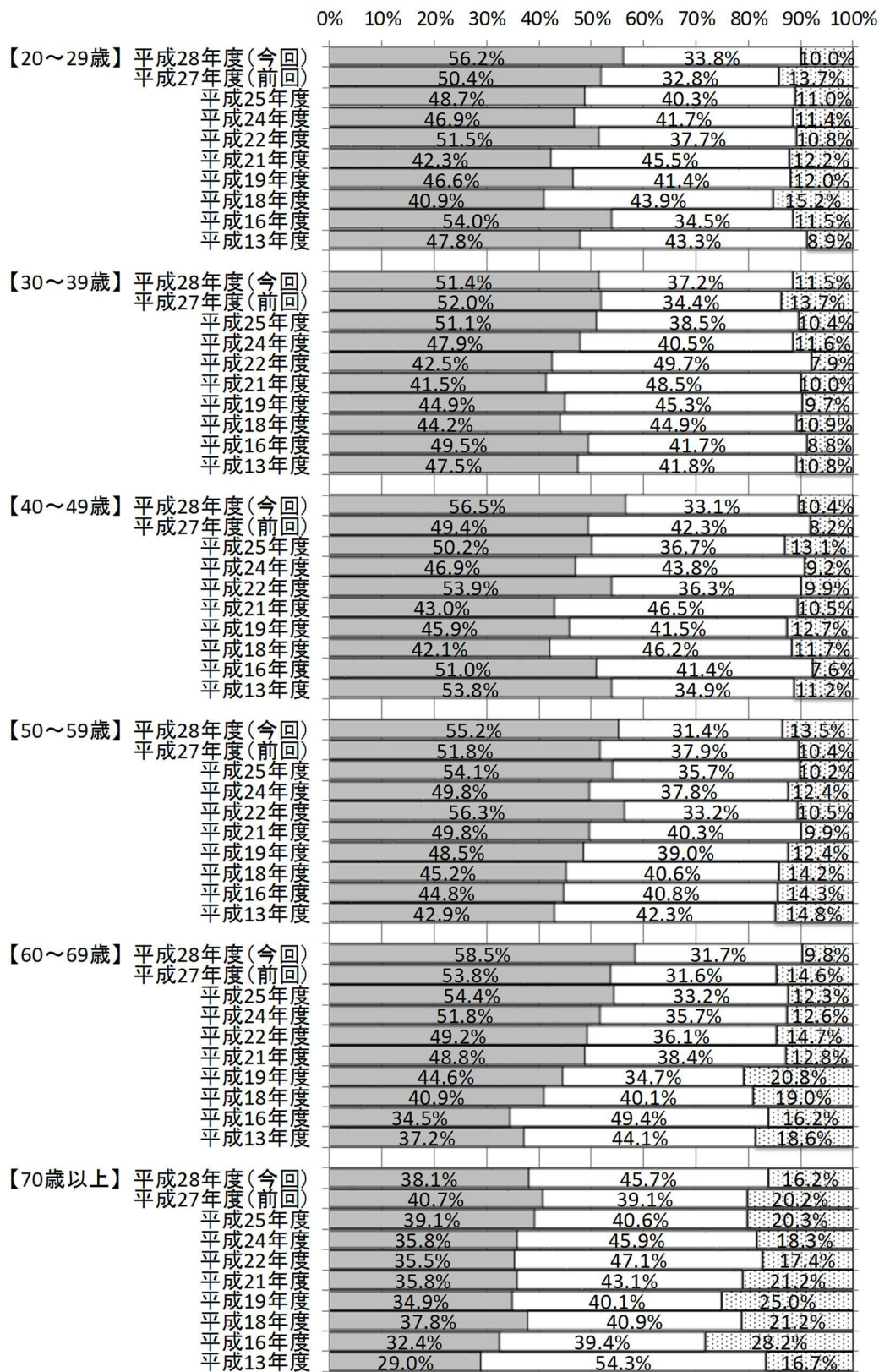
【性別による役割×性別】



- “同感しないほう”の比率
- “どちらともいえない”と“わからない”の合計比率
- ▣ “同感するほう”の比率

年齢別にみると、“同感しないほう”の割合が“60～69歳”で58.5%と最も高くなっています。次いで、“40～49歳”で56.5%、“20～29歳”で56.2%となっています。“70歳以上”は38.1%であり、他の年齢層より低めとなっています。

【性別による役割×年齢】



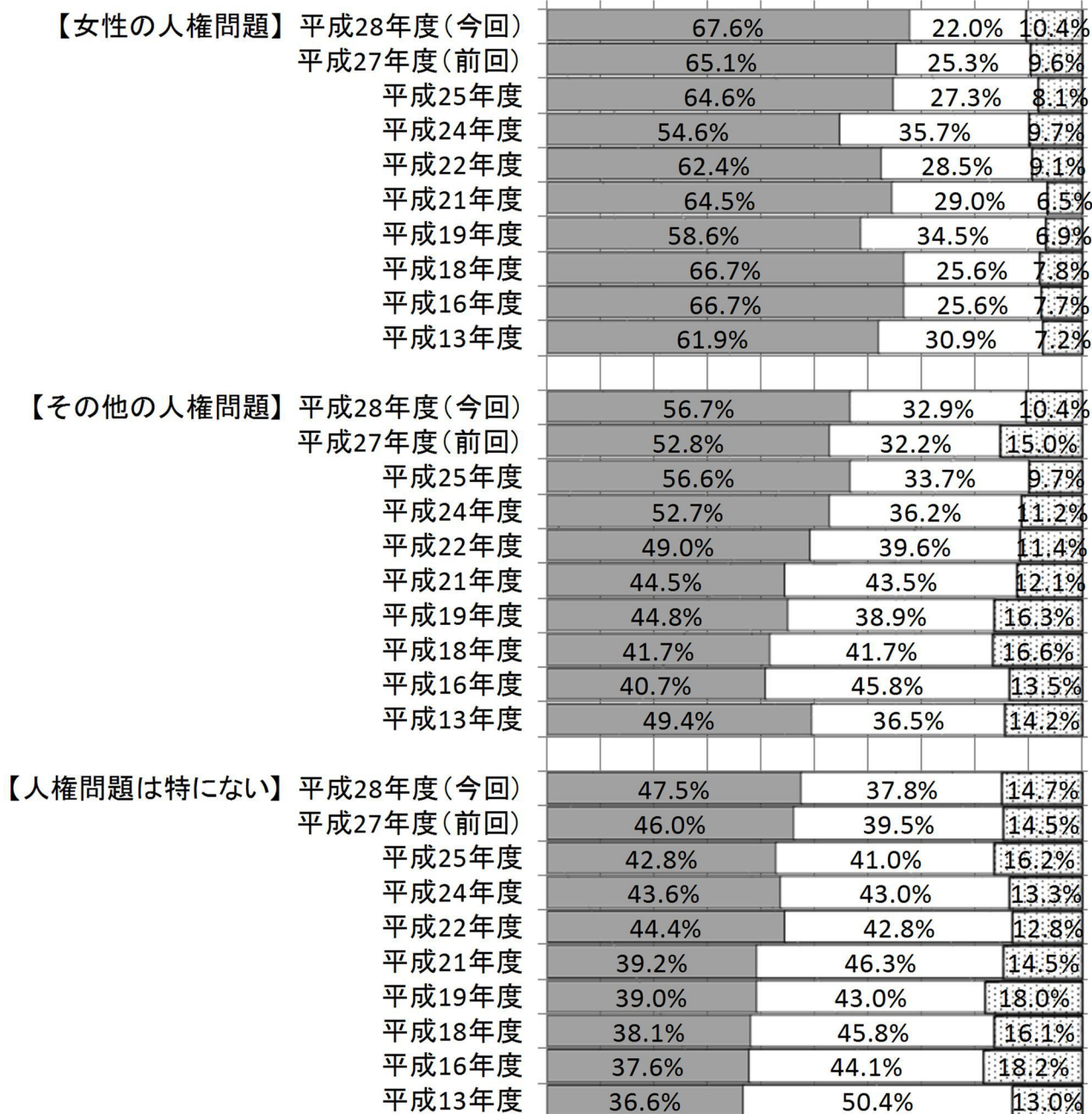
- “同感しないほう”の比率
- “どちらともいえない”と“わからない”の合計比率
- ▨ “同感するほう”の比率



人権問題への認識別でみると、“同感しないほう”の割合は、女性の人権問題が守られていないと回答している人で67.6%と最も高くなっています。前回調査と同様に男女共同参画に係る問題が、女性の人権と密接に結びついた問題として意識されていると考えられます。

【性別による役割×人権問題の認識】

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90%100%



- “同感しないほう”の比率
- “どちらともいえない”と“わからない”の合計比率
- ▨ “同感するほう”の比率

指標

女性の就業割合

(1) 指標の説明

就労を希望する女性が働けるようになることで、男女が対等なパートナーとしてさまざまな分野に参画でき、能力を発揮できるまちになると考えられます。そこで、女性の就業割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。

F3 あなたの職業をお答えください。(1つに○)

- |                      |        |
|----------------------|--------|
| 1 会社員                | 7 専業主婦 |
| 2 公務員(教員、団体職員などを含む。) | 8 無職   |
| 3 自営業(農業を含む。)        |        |
| 4 アルバイトやパートなどの臨時雇用   |        |
| 5 学生                 |        |
| 6 その他( )             |        |

(3) 指標の現状

	平成 21年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度
働いている女性の割合	50.3%	61.6%	61.9%	64.4%	69.4%



#### (4) 指標の分析

☆20～65歳未満の女性の70%近くが就業しています。

年齢別にみると、女性の就業割合は“25～29歳”が82.1%と最も高くなっています。一方で、“20～24歳”の就業率が前回調査より10.1ポイント減少の44.4%となっています。また、子育て世代の“35～39歳”は55.6%であり、他の年齢層より、やや低くなっています。

“55～59歳”は前回調査より19.8ポイント増加の73.6%、“60～64歳”は17.7ポイント増加の56.5%となっています。高齢者層の就業が社会的な現象となっていますが、松戸市でも、同様の現象がうかがえます。

